

コロコロ遊具

特徴

- ・ コロ材が、コロコロとハシゴ段を小気味よく転げ落ちていく遊具
- ・ コロ材は、工作用木材の手頃な形状から 3 種類作ってみた。(角、六角&丸材)

寸法 本体：135 横×100 縦×432.5 高さ
コロ：30×60 長

材料 桧、ツガ（ベース）、ブナ（コロ）
塗装 コロのみボアステイン、本体はクリアのみ
仕上げ：水性ウレタンニス クリア

重量 220 g（本体）65g（コロ 3 個分）
製作費 1,154 円（ベース材及び塗料除く）

完成：2013 年 5 月



↑ 塗装で失敗することが結構あるので、塗装前の仕上がり状態です。やはりネジが一切見えないと質感が違います。



← ハシゴの取り付け方は、支柱に溝加工をしてスペーサを挟み、嵌め込んでいます。最後にカバーを接着して完成（非分解）

コロに塗装するか否か悩みます。ブナ材の変形は半端ではなさそうなので、スリット寸法の為にはこのままが無難なのかも・・・？



↑ 通し穴（φ15）の狂いは、判別できない位に正確に中心を抜いています。スリットも手ノコとヤスリで正確に 4.3 ミリに仕上げ。

裏話

- ・ 旅先で見かけた「コロコロ組立キット？」を思い出しながら、自分なりに作り込んでみた。
- ・ 一度やってみたかった「ホゾ加工もどき」をベース部で初挑戦してみたが、もし嵌合が甘かったらネジ止めにしようと思案に挑戦したら、これがバッチリ決まりうれしい誤算。
- ・ こうなると、ハシゴ部もホゾ組み風に見せたくて手間ヒマかけたので、ネジが一切見えなくていい感じに仕上がったと大満足。
- ・ 一番の苦心は、コロ材の真芯に開けたい通し穴の加工。 ボール盤を持っていない身には、師匠教示のドリルアタッチメントに頼るしかないが、さすがに丸棒の反対位置に正確に貫通するはずがない。
- ・ そこでドリルの抜け際にバリを出さない加工方法の応用で、両側から半分ずつ加工した。内部では多少のズレがあっても、両端の入口は正確に加工することができた。このテクは、多少ガタのきたドリルアタッチメントを上手に使いこなす裏ワザの一つです。